


おわせSEAモデル グランドデザイン

当グランドデザインは、尾鷲市、尾鷲商工会議所および中部電力が、尾鷲三田火力発電所の跡地を「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」で、産業、観光、市民サービスを融合した拠点として、人々が集い活気あふれる「ふるさと尾鷲」を目指していく方向性を示すもので、今後、本グランドデザインに基づき、事業・サービスの展開に向けた具体的な検討、そして企業誘致を進めていきます。



おわせSEAモデル協議会
2019年3月22日

1. コンセプト

ルネサンスとは、フランス語で「再生」であり「再興」。過疎高齢化に悩む「ふるさと尾鷲」を、新たなエネルギーと豊かな自然の力を借りて、今一度復活させる。

ふるさとエネ・ルネサンスOWASE

集客交流人口拡大

「S」

S E R V I C E

サービス・コンテンツの充実で
市民も観光客も楽しめる場所へ。

新たなエネルギーの活用

「E」

E N E R G Y

再生可能エネルギーを活用した
新たなエネルギー発生基地へ。

働く場所・雇用の創出

「A」

A Q U A / A G R I C U L T U R E

尾鷲の恵みと新たなエネルギーの
有効活用で新ビジネスの創出へ。

S E A

..... 住民・観光客

憩いの場の創出

「暮らし・癒し」・「食(さかな)」「自然・まなび」

尾鷲の魅力である「自然」、「食」を軸としたうえで、
暮らす人々の憩いの場・学びの場づくりと集客ター
ゲットに合せた新たな切り口による魅力を最大化

S E A

..... 企業

新たな産業・サービスの創出

「エネルギー」「循環」「ビジネス」

木質バイオマス発電、広域ごみ処理施設から得られる
熱を中心とした「地産地消エネルギー」で、「新たな産
業・サービス」を創出し、地域活性化に寄与



S、E、A各々が内包している魅力的要素を抽出しPR

2. ゾーニング・構想イメージ

広大な敷地を存分に活用し、サービス・エネルギー・産業がつながる画期的な街を生み出す。周辺で暮らすみなさまはもちろん、観光で訪れた人々にもこれまでにない体験やここでしかできない貴重な時間を提供する。



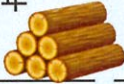




※本配置図(ゾーニングプラン)はあくまで現時点での想定図。後の詳細検討の進捗により、項目や配置場所の変更の可能性がある。







3-1. 各施策イメージ (S:サービス)

用途	イメージ	検討・実施主体	事業開始目安	方向性
釣り桟橋		尾鷲市 (事業パートナー)	2022年 	揚油桟橋を改修し、全長では日本最大級となる釣り桟橋とする。尾鷲に新たな釣りのフィールドを設けることで、太公望はもちろん、ファミリー、カップルなど、子供から大人まで安心して気軽に楽しむことができる、新たな「賑わいの場」を創出することを目指し検討する。
運動施設・公園		中電グループ ・ 尾鷲市	2022年 	施設全体との調和の中で、安全・安心に既存の野球場、テニスコートなどの運動施設を継続的に開放することで、爽やかな汗を、また、キッズパーク、散歩コースなど子供からお年寄りまでのんびりくつろげる市民の「憩いの場」を創出することを目指し検討する。
教育・体験学習		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年 (部分開業) 	第一次産業（陸上養殖・植物工場）はもちろん、開発エリア全体で創出されるあらゆる産業を教育・体験の視点で繋ぐことにより、市内の児童・学生はもちろん、市外からの学生を呼び込む「フィールド教育の場」を創出することを目指し検討する。
アクティビティ		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年 	尾鷲の自然を満喫する、子供から大人まで楽しむことができるアクティビティ（ウォーキング・カヤック・サイクリングなど）を核とした「着地型観光の拠点」を創出することを目指し検討する。
宿泊施設		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年 	釣りで、運動施設で、アクティビティで満喫した後は、非日常的な快適空間のグランピングで、また、内装に尾鷲ヒノキを活用した拡張性のあるコンテナハウスで、そして疲れを癒す温浴施設により「癒しの場」を創出することを目指し検討する。
PoC(実証実験)		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年～ (順次)	変わり続ける時代の流れに取り残されることなく、少子高齢化、過疎化の進展が著しい地域に合ったPoC(実証実験)を行うことができる「産業創出の場」を創出することを目指し検討する。
企業誘致		市・商工会議所・中電 (誘致企業)	2023年～ (順次) 	尾鷲市、尾鷲商工会議所、中部電力の3者が協力し、企業にとって魅力ある開発地訴求を実施することで、開発コンセプトに合致した企業誘致を行い、新たな「雇用創出の場」を目指す。

3-2. 各施策イメージ (E:エネルギー)

用途	イメージ	検討・実施主体	事業開始目安	方向性
広域ごみ処理施設		東紀州5市町	2026年	東紀州5市町の広域ごみ処理施設を整備し、そこから発生する熱を中心としたエネルギーを陸上養殖、植物工場などの一次産業への有効活用を図ることで、新たな産業を創出する。
木質バイオマス発電		中電グループ	2024年 	周辺地域の間伐材等を活用し、木質バイオマス発電を行うとともに、そこから発生する熱を中心としたエネルギーやCO2などを一次産業および誘致する企業に利用することを目指し検討する。
太陽光発電		中電グループ 	2024年	導線的に有効活用が難しいスペースや遊休エリアを活用して太陽光発電施設を設置し、エリア内における誘致企業等へのクリーンで安価な電力供給を検討する。

3-3. 各施策イメージ (A:アクア・アグリ)

用途	イメージ	検討・実施主体	事業開始目安	方向性
陸上養殖		尾鷲商工会議所 (事業パートナー)	2023年 (部分開業) 	広域ごみ処理施設や木質バイオマス設備などで発生する排熱を活用した屋内型施設による陸上養殖を行う。地域資源となり得る魚介類及び藻類等の養殖を目指し検討する。
植物工場		尾鷲商工会議所 (事業パートナー)	2023年 (部分開業) 	広域ごみ処理施設や木質バイオマス設備などで発生する排熱やCO2などを活用した次世代型施設園芸を行う。高付加価値が期待できる農産物の栽培を目指し検討する。
飲食・商業施設		尾鷲商工会議所 (事業パートナー)	2023年 (部分開業) 	市民や観光目的で訪れる来訪者まで広く活用される施設および集客交流拠点として、地元企業を中心に誘致・建設することを目指す。 また、釣り桟橋やグランピングなどとのシナジー効果を期待し、その場での調理や提供など、レストラン(飲食)の誘致も検討する。